

2. 人工呼吸の手順

訓練を積み技術と意思がある場合は、胸骨圧迫の後人工呼吸を2回行います。

- 人工呼吸の方法を訓練していない
- 人工呼吸用のマウスピース等がない
- 血液や嘔吐物などにより感染の危険性がある

人工呼吸を行わず、胸骨圧迫を続けます

(1) 気道を確保

喉の奥を広げ、空気の通り道を確保することを「**気道確保**」と言います。

片手で要救護者の額を押さえながら、もう一方の手の指先を要救護者のあごの先端に当てて押し上げます。あごの下の柔らかい部分を指で圧迫しないよう注意しましょう。



(2) 人工呼吸

気道を確保したまま、救護者の口を大きく開いて要救護者の口を覆って密着させ、息を吹き込みます。

この際、吹き込んだ息が要救護者の鼻から漏れ出さないように、額を押さえている方の手の親指と人差し指で要救護者の鼻をつまみます。



ポイント

- ☆ 胸が上がるのが見えるまで吹き込みます
- ☆ 約1秒かけて吹き込みます
- ☆ 吹き込みは2回まで

注意

吹き込む量が多かったり、勢いが強いと空気が胃に入って、胃が膨らんだり、胃の内容物が口腔内に逆流し、気道閉塞や肺炎を引き起す可能性があります。危険です。

3. AEDの使用手順

AED (Automated External Defibrillator) の日本語訳は「自動体外式除細動器」といいます。体外(裸の胸の上)に貼った電極のついたパッドから自動的に心臓の状態を判断します。もし心室細動という不整脈(心臓が細かくブルブルふるえていて、血液を全身に送ることができない状態)を起こしていれば、強い電流を一瞬流して心臓にショックを与えること(電気ショック)で、心臓の状態を正常に戻す機能を持っています。

(1) AEDを持ってくる

AEDは目に付きやすい場所に置かれています。

AEDのマークが目立つように貼られた専用のボックスの中に置かれています。

AEDを取り出すためにボックスを開けると、警報ブザーが鳴りますが、緊急時には鳴りっぱなしのまま要救護者のもとに持参してください。



自動販売機に設置されているAEDもあります。日頃からチェックしておきましょう。

(2) AEDの準備

AEDを要救護者の頭の近くに置くと操作がしやすくなります。

(3) 電源を入れる

AEDの電源を入れます。

機種によって、ボタンを押して電源を入れるタイプと、ふたを開けると自動的に電源が入るタイプがあります。

電源を入れたら、以降は音声メッセージとランプに従って操作します。

(2)シミュレーションと備え



① 第一発見者の観察と迅速な対応

第一発見者となった人は、利用者の状態(意識や呼吸をしているかなど)をよく観察し、心肺停止の状態であれば直ちに119番通報し、救急車の要請をすると共に、一次救命処置に入ります。

可能であれば、事業所にも連絡し応援を呼びましょう。

※ 事業所に第一報をするルールがある場合は、事業所にまず連絡し指示を仰ぎます。

② 訪問時刻を守る

契約している訪問時刻は守りましょう。時間のズレにより事件性ありと判断されてしまう場合があります。計画の時間と異なる場合はその理由を記録に残します。記録は公的な証拠となるので、正しく、具体的に記入しましょう。

③ 緊急時の対応マニュアルを確認

各事業所で作成されている「緊急時の対応マニュアル」を確認しておきます。同時に、利用者個々に作成されている緊急連絡先等の記載された書類も確認しておきましょう。救急車を要請する際には、正確な住所や目印になる建物を伝えますので、どこに何が書いてあるのか把握しておくことは大切です。

④ 利用者の「いつも」を知っておきましょう

高齢者は、いつ何がおきてもおかしくない状況であると意識し、利用者の「いつも」を把握しておきます。「いつも」と異なる変化に気づくことで、早期受診へとつながります。

⑤ 警察が来るまで現場保存

応急処置を行う以外は、できるだけ物には触れず状況を変えないようにしましょう。“鍵はかかっていたのか”“電気はついていたのか”といった部屋の状況、ご遺体の位置・体勢・様子など、細かく現場検証をします。また事情聴取もあるので、正確に落ち着いて状況を説明しましょう。



西東京市暮らしヘルパー養成研修

緊急時の対応方法

**発行／平成28年11月1日 西東京市
令和4年2月1日 第4刷発行
初版作成／ヒューマンライフケア株式会社**

無断転載・複製禁止